

授業科目 生活構造論 I

【担当教員名】 米林 喜男	対象学年	2	対象学科	社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
 人間を「生活者」としてとらえ、生活の全体構造を、①個人の生活構造、②家族の生活構造、③地域住民の生活構造、④国民の生活構造の各々について分析する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】
 1. 人間の生活、生活者、生活構造、生活問題など生活にかかわる基本概念を理解する。
 2. 生活と保健・医療・福祉との関係を理解する。
 3. 生活の主体者である「生活者」の生活設計と生活問題対策について考える。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	生活とは何か…生活の概念と生活者の概念を理解する。	講義受講（受講者が少なければ 討論も行う）、 読書等自主学習	
2	生活の高密度化をはかる5つの条件		
3	生活構造とは何か…生活構造の研究史、生活構造概念の形成過程を理解する。		
4	社会構造と生活構造…社会と生活との構造的関連を分析する。		
5	社会問題と生活問題…社会問題と生活問題との共通点・相違点を理解する。		
6	生活問題と生活福祉…生活問題に対する社会的対策としての生活福祉を理解する。		
7	生活問題と生活設計…生活問題に対する主体的対策としてのデザインを考える。		
8	生活設計と生活福祉…生活者の主体的生活設計と社会的生活福祉の関係を考える。		
9	個人の生活構造…個人の生活周期の各段階における生活構造を理解する。		
10	家族の生活構造…結婚から夫婦の死亡に至る各段階の生活構造を理解する。		
11	地域住民の生活構造…農村、都市など地域による住民生活構造の相違を考える。		
12	国民の生活構造…戦後日本の国民生活の構造的変化を理解する。		
13	現代の生活構造の変化…21世紀における生活構造・生活問題の変化を予測する。		
14	生活変化と保健・福祉の課題…生活構造と生活問題の変化に対応する保健・福祉を考える。		
15	まとめ		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	特定ものは使用しない			
参考書	随時紹介する			
その他の資料	必要に応じて印刷教材を配布する			

【評価方法】 ①レポート、②出席、③期末試験を総合して評価する。	【履修上の留意点】 生活者として自覚し、自分の生活体験と、家族の生活体験を客観的にとらえ、講義・教材・参考書などを活用して、主体的に学習してほしい。
-------------------------------------	---

社会福祉学科 専門